

資金収支計算書からみる
まちの財政運営状況

経常的収支
10 億 2,100 万円

人件費などの支出と税金などの経常的な収入との差し引き。プラスなので資金（流動資産）が増えたこととなります。

資本的収支
▲ 9 億 2,200 万円

基金積立てや固定資産形成に関する収支。現金の動きでマイナスは貯金、プラスは貯金をおろすことを意味します。マイナスなので将来に備え貯金したこととなります。

財務的収支
▲ 2 億 2,200 万円

借金の返済額と、借り入れた額の収支。返済を優先し、借り入れを抑えたためマイナスとなり、将来世代への負担を軽減したこととなります。

※ 100 万円未満四捨五入のため、積み上げ金額と合計金額が一致しない場合があります。

財務 4 表からわかる各種指標
○平成 22 年度末現在人口 5, 8 7 6 人

- ◆町民 1 人当たりの資産、負債、純資産
資産⇒ 3 8 7 万円 負債⇒ 1 2 3 万円
純資産⇒ 2 6 4 万円 (貸借対照表参照)
- ◆町民 1 人当たりの総行政・純行政コスト、人件費
総行政コスト⇒ 7 5 万円 人件費⇒ 1 9 万円
純行政コスト⇒ 7 0 万円 (行政コスト計算書参照)
- ◆受益者負担率 6 . 1 % 【経常収益 / 経常費用】
総行政コストのうち、サービスの受益者（町民）が直接負担したコストの割合。(行政コスト計算書参照)

資金収支計算書

年度中の資金（現金）の動きを示すもので、経常的収支、資本的収支、財務的収支により表示します。

1、経常的収支	人件費、税金、交付税など継続的に発生する収支	10 億 2,100 万円
①経常的支出		35 億 4,100 万円
②経常的収入		45 億 6,200 万円
2、資本的収支	固定資産や基金などの収支	▲ 9 億 2,200 万円
①資本的支出		9 億 7,200 万円
②資本的収入		5,000 万円
3、財務的収支	町債などの収支	▲ 2 億 2,200 万円
①財務的支出		8 億 800 万円
②財務的収入		5 億 8,600 万円
当期資金収支額（1 ～ 3 の合計）・・・【1】		▲ 1 億 2,300 万円
期首資金残高（H22 年度当初の現金）・・・【2】		2 億 3,600 万円
期末資金残高（【2】－【1】）		1 億 1,300 万円

行政コスト計算書

行政サービス提供のためにまちがどのような費用の使い方をしたかを経常費用（行政コスト）と経常収益（行政収入）に区分して表示し、その差し引きを純行政コストとして表示します。

1、人件費（議員歳費、職員給料など）	11 億 2,400 万円
2、物件費（消耗品費、減価償却費など）	11 億 5,400 万円
3、経費（委託料など）	4 億 8,400 万円
4、業務関連費用（公債費 [利払分] など）	7,900 万円
5、移転支出（繰出金、雑入など）	15 億 5,400 万円
経常費用（総行政コスト）・・・①	43 億 9,500 万円
1、業務収入（使用料、手数料など）	1 億 7,200 万円
2、業務関連収益（基金利子、補助金など）	9,800 万円
経常収益合計・・・②	2 億 7,000 万円
純経常費用（純行政コスト [①－②]）	41 億 2,500 万円

- ◆純資産比率 6 8 . 2 % 【純資産合計 / 総資産合計】
社会資本に対し、現在までの世代がすでに負担した割合で、この比率が高いほど将来世代への負担の先送りが少なく、財政状況が健全であるといえます。
(貸借対照表参照)
- ◆基礎的財政収支（プライマリーバランス）
【経常的収支＋資本的収支】⇒ 9, 8 9 0 万円
この額がゼロ（均衡）又はプラスであれば、行政サービスを借金（町債）に頼ることなく賄われており、財政運営は健全であると言えます。(資金収支計算書参照)

貸借対照表

まちの資産とその資産をどのような財源で賄ってきたかを示すもので、左側に「資産の部」としてこれまで積み上げてきた資産を表示し、右側に「負債の部」として

資産の部（これまで積み上げてきた金額）	
1、金融資産（基金など）	48 億 4,000 万円
①資金（年度末の現金残高）	1 億 1,300 万円
②債権（税の未収金など）	5,900 万円
③有価証券	1,300 万円
④投資など（基金積立金など）	46 億 5,600 万円
2、非金融資産（固定資産など）	179 億 1,600 万円
①事業用資産（庁舎・学校など）	108 億 7,200 万円
②インフラ資産（道路、河川など）	70 億 4,400 万円
資産合計	227 億 5,600 万円

将来世代が負担する金額と、資産から負債を差し引いた「純資産の部」として現在までの世代が負担した金額を表示しています。

負債の部（将来世代が負担する金額）	
1、流動負債（1 年以内に支払うもの）	7 億 9,000 万円
①賞与引当金	5,500 万円
②町債（短期）	7 億 700 万円
③その他	2,800 万円
2、非流動負債（償還予定が 1 年超のもの）	64 億 4,500 万円
①町債	52 億 1,200 万円
②退職給付引当金	12 億 2,800 万円
③その他	500 万円
負債合計（1、2 の合計）	72 億 3,500 万円
純資産の部（これまでの世代が負担した金額）	
純資産合計	▲ 155 億 2,200 万円
負債・純資産合計	227 億 5,600 万円

純資産変動計算書

まちの純資産が 1 年間でどのように増減したかを示します。純資産の増加は、現役世代の負担により将来世代の負担が軽減されたこととなります。

22 年度当初純資産残高【①】	155 億 3,000 万円
1、財源変動の部	400 万円
(1) 財源の使途（①～④）	53 億 2,500 万円
①純経常費用への財源措置	41 億 2,500 万円
②固定資産形成への財源措置	2 億 7,700 万円
③長期金融資産形成への財源措置	6 億 8,300 万円
④その他の財源措置	2 億 4,100 万円
(2) 財源の調達（①～③）	53 億 3,000 万円
①税収	8 億 2,000 万円
②移転収入（交付税、国の補助金など）	34 億 7,400 万円
③その他の財源調達（減価償却費）	10 億 3,600 万円
2、資産形成充当財源変動の部	▲ 1,200 万円
①固定資産の変動	▲ 10 億 1,400 万円
②長期金融資産の変動	6 億 3,700 万円
③評価・換算差額などの変動	3 億 6,400 万円
3、その他の純資産変動の部	0 万円
当期純資産変動額（1+2+3）【②】	▲ 800 万円
期末純資産残高（【①】＋【②】）	155 億 2,200 万円

平成 22 年度
佐呂間町財務書類の
公表について

市町村の財務情報は、現金収支に重点を置いた現金主義・単式簿記を特徴としていましたが、資産や債務の実態が分かりにくいことから、国において「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」が示され、従来の決算書や健全化 4 指標の作成に加え、発生主義・複式簿記による企業会計的な手法を活用した「貸借対照表」「行政コスト計算書」「純資産変動計算書」「資金収支計算書」の財務 4 表の整備が求められました。町では全ての資産情報を整理の上、公正価値による評価を基本とした『基準モデル』を採用し、次のとおり作成・公表します。



october~december

町内各保育所では10月焼き芋が行われました。寒さに負けず、ホクホクの焼き芋を美味しく頬張り、おかわりをして何個も食べました。11月はミュージックフェスティバルで、一生懸命に練習した成果を発表しました。手話を交えたり、オリジナルの歌詞を作ったりと会場は大変盛り上がりしました。12月、子どもたちが楽しみにしていたクリスマス。町内ではクリスマスにちなんだ行事が多く開催されました。サンタさんに会えたかな？



4月、今年の豊漁と安全を願い祈願祭と水難救難訓練が行われました。5月といえば佐呂間ではホタテの稚貝放流作業。早朝から多数の船が湖へと走り出します。6月、100km マラソン。暑い中必死にゴールへ走るランナーに沿道から声援が飛びます。栄地区では人間ばんばが開催。

april~june

2011.4 ~2012.2 photograph of memories



1月、成人式が佐呂間町民センターで行われ、新成人の門出を祝いました。夢に向かって大きく羽ばたけサロマッ子!! また、1月は町内各保育所、子育て支援センターあいあいでも雪中運動会が行われ、元気に外で雪とのふれあいを楽しみました。2月、かまくら雪まつりに先立ち前日の18日、キャンドルスローナイトが開催され、町内各地にキャンドルの優しい明かりが灯りました。



january~february



july~september



海の子という事業で7月、参加した子どもたちはサロマ湖の漁業を体感しました。8月、JAグループ主催のイベントでコンサドーレ札幌の選手と一緒にサッカーと食について学びました。そして、今年度一番のニュースはなんとと言っても佐中ソフト部の全国大会出場!! 少ないメンバーで私たちに希望と感動を与えてくれました。9月、雨でパフォーマンスは屋内披露でしたが、迫力満点でした。

